

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

AUGUST 2017 vol.40

AUGUST

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

◆ あんらくじ 安楽寺

所在地：知多郡南知多町日間賀島字里中

交通：師崎港または河和港からフェリー

日間賀島は知多半島の先端、師崎から2.4kmに位置する島で、周囲約5.5km、2時間ほどで一周できる小さな島です。水産業と観光業が中心で、特に日間賀のたこは知名度が高く、多くの観光客を集めてきました。

この日間賀島の東の集落に安楽寺というお寺があり、ここに金色に輝く『章魚（たこ）阿弥陀』と呼ばれるお地蔵さまが安置されています。このたこ阿弥陀様について、地震にまつわる次のようなむかし話が残されています。

「潮のよく干った時に、日間賀の東のはずれにあるお宮さんに立つと、ちょうど佐久島の方にあたる東の海の中に、小島のような磯が現れるのが見られます。ここは、大磯と呼ばれていて、むかしは、日間賀と陸つづきになっていたところだそうです。近くには、内寺、小内寺という地名が残っていて、もぐってみると、いまでも墓石がころがっているの見えるそうです。それというも、むかし、この大磯に、竹林寺とか筑前寺とかいうお寺があって、あるとき、大地震が起きて土地といっしょにこの寺も海の中に沈んでしまったからだそうです。それから長い間、この寺の跡は、魚や貝のすみかとなっておりました。

あるときのことです。茂二郎さんという島の漁師が、この大磯のあたりでたこ漁をしておりました。（中略）やがて縄の先についたたこつぼが、青黒い海の底から見えてきました。つぼの口からたこの足がはみ出しています。「これは大きいぞ。」しづきといっしょに大だこの入ったつぼ

が、舟の中に飛び込むようにしておさまりますと、茂二郎さんは、つぼの中からたこを引き出しました。

「やや、何だ、これは。」たこがあまりに重いので、はじめは石でもかかえているのかと思いましたが、何だかぴかぴか光るものをしっかりとだしているようです。よく見ると、それは、阿弥陀さんではありませんか。びっくりした茂二郎さんは大急ぎで島に帰ってこの阿弥陀さんを安楽寺に届けました。この阿弥陀像は、海に沈んでしまった寺のものだったということです。』『続知多のむかし話（河和中学校編 昭和55年）』

安楽寺に届けられたこの阿弥陀様は、以来、たこ阿弥陀様と呼ばれ、豊漁と村内安全をお祈りする氏仏様として島の人たちの信仰を集め、正月三日には、このたこ阿弥陀様の前で年に一度のおまつりが行われるようになりました。このおまつりは、丸太と縄で作った御殿に神主と世話役が入り、奉納の儀を行ったあと、御殿の中で酒盛りが始まったところで、若者たちが外から御殿をゆさぶり、七人衆が驚いてほうほうの態で逃げ出す、というもので、日間賀に大地震があったときのことを伝えています。

たこ阿弥陀様は現在も丁寧に手入れがなされ、金色の輝きを放ち、地元の人々、島を訪れる観光客の信仰を集め続けています。



たこ阿弥陀如来と絵馬
(JAEE NEWSLETTER, August 2017 より)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたとくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 安楽寺の周辺には…

● 島弘法

所在地：知多郡南知多町篠島

交通：師崎港または河和港からフェリー

篠島地域には、貞観4（862）年頃の大地震で、この付近一帯に大きな地盤沈下がおこり、暗礁ができたという言い伝えがあります（篠島地域の大陥没）。このためか、海難事故が多く、明治末期



には、慰霊と海上安全、大漁を願って、弘法様が島を囲むようにつくられました。山弘法とも呼ばれています。

● 宝積院

所在地：知多郡南知多町内海北向

交通：海っ子バス「大井戸」停 東約100m



嘉永7（1854）年の安政東海地震で、「大潮より7尺ほど高く満ち」「東端村の慈光寺の坂下から宝積院の脇入口まで津波が押し寄せた」ことを記録した古文書が、郷土研究誌みなみ第50号に掲載されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ たこ祭り

たこ祭りは、毎年8月12日に日間賀島の東側のサンライズビーチで開催される島の夏の風物詩で、島の生業の中心となっているたこへの感謝と供養を行うお祭りとして、平成4年頃に始まりました。

午前の部はたこの供養を主として、奉納の儀や活きたこの放流などが行われ、地元小学生によるたこの神輿担ぎや、たこのつかみ取りが行われます。夜の部では、地元の子供たちによる太鼓やダンスが行われ、最後は打ち上げ花火でフィナーレを迎えます。日間賀島の花火は距離が近く、頭上に打ち上がる感覚でとても迫力があります。（7月第2土曜日に行われるぎおん祭でも打ち上げ花火があります。）



Aichi Now HPより

8月のあいちの花

平成29年8月のあいちの花はケイトウです。ケイトウは、炎のような鮮やかな花をつけ、その形状



ヤサシイエンゲイ HPより

がニワトリのトサカに似ていることから、この名（漢字では鶏頭）が付けられました。

暑さに強く、真夏でも弱らず生長するため、春に種をまいて夏から秋に花を楽しみます。草丈は小さいもので15cm、大きなものは1.5mほどにもなり、花色は黄色、赤、オレンジ、紅紫などがあります。

● ブレイクタイム ●

♪ 羽豆岬

羽豆岬は、日間賀島に渡る観光船の発着場である師崎に位置し、小高い丘陵地となった一帯には、国の天然記念物にも指定されているウバメガシが茂る全長800mの遊歩道と羽豆神社があります。眺望が良い場所で、途中の羽豆岬展望台からは、日間賀島や篠島、伊勢湾、三河湾などが見渡せます。14世紀初めの南北朝時代には、熱田大宮司であった千秋昌能が築城した羽豆崎城があったとされ、城址碑も建てられています。

また、2010年にはSKE48が羽豆岬のタイトルで楽曲を発表しており、地元の観光協会により、2013年に南側の公園にこの歌の歌碑が建立されました。



Aichi Now HPより



◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成29年8月）